

2022 年度
自己評価報告書
(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

2023年8月7日

ECC 国際外語専門学校

目 次

| | | | |
|---------------------------------|-----------|-------------------------------|-----------|
| 教育目標と本年度の重点目標の評価 | 1 | 5-18 学生相談 | 25 |
| 基準 1 教育理念・目的・育成人材像 | 2 | 5-19 学生生活 | 26 |
| 1-1 理念・目的・育成人材像 | 3 | 5-20 保護者との連携..... | 28 |
| 基準 2 学校運営 | 4 | 5-21 卒業生・社会人..... | 29 |
| 2-2 運営方針..... | 5 | 基準 6 教育環境 | 30 |
| 2-3 事業計画..... | 6 | 6-22 施設・設備等 | 31 |
| 2-4 運営組織..... | 7 | 6-23 学外実習、インターンシップ等 | 32 |
| 2-5 人事・給与制度..... | 8 | 6-24 防災・安全管理..... | 33 |
| 2-6 意思決定システム | 9 | 基準 7 学生の募集と受入れ | 34 |
| 2-7 情報システム | 10 | 7-25 学生募集活動は、適正に行われているか | 35 |
| 基準 3 教育活動 | 11 | 7-26 入学選考 | 36 |
| 3-8 目標の設定 | 12 | 7-27 学納金 | 37 |
| 3-9 教育方法・評価等 | 13 | 基準 8 財務 | 38 |
| 3-10 成績評価・単位認定等 | 15 | 8-28 財務基盤 | 39 |
| 3-11 資格・免許の取得の指導体制 | 16 | 8-29 予算・収支計画..... | 41 |
| 3-12 教員・教員組織..... | 17 | 8-30 監査..... | 43 |
| 基準 4 学修成果 | 18 | 8-31 財務情報の公開..... | 44 |
| 4-13 就職率 | 19 | 基準 9 法令等の遵守 | 45 |
| 4-14 資格・免許の取得率 | 20 | 9-32 関係法令、設置基準等の遵守..... | 46 |
| 4-15 卒業生の社会的評価 | 21 | 9-33 個人情報保護 | 47 |
| 基準 5 学生支援 | 22 | 9-34 学校評価 | 49 |
| 5-16 就職等進路 | 23 | 9-35 教育情報の公開..... | 50 |
| 5-17 中途退学への対応 | 24 | 基準 10 社会貢献・地域貢献 | 51 |
| | | 10-36 社会貢献・地域貢献 | 52 |
| | | 10-37 ボランティア活動..... | 53 |

教育目標と本年度の重点目標の評価

| 学校の教育理念・目標 | 2022年度重点目標 | 重点目標・計画の達成状況 | 課題と解決方策 |
|---|---|---|--|
| <p>【学園理念】 実践的な専門知識と技能の習得を通じて、社会が求むところの高度専門職業人の養成、且つ、豊かな社会、平和と幸福を希求してやまない豊かな社会人の育成をはかる。</p> <p>【学校運営目標】 ①変化する時代社会の要請に即応し、学生、保護者及び広く社会よりの期待に応える最先端の専門学校、コース開発に努め、社会の持続的発展に寄与する専門学校づくりをめざす。 ②教職員が誇りをもち、且つ、安全で健康な楽しく働きやすい環境を有する専門学校づくりをめざす。 ③さまざまな社会貢献活動への参画を通して卓越した実行力を有する専門学校づくりをめざす。</p> <p>【学校教育目的】 本学は学校教育法及び教育基本法に基づき、語学ビジネス専門教育を通じて、実社会に有用な人材の育成を目的とする。以って国際間の人々の交流と相互理解を促進し世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。</p> | <p>1.収益力の向上 ①教育50・経営50のバランスを保ち、教育の質を保ちながら増収、増益をはかる。 ②経費に関しては、業務効率化に取り組み長時間労働を削減し、主に人件費の削減をはかる。 ③高い教育成果を追求し、その教育成果を積極的かつ定期的に外部に発信することにより学生数の回復をはかる。</p> <p>2.教職協働による働きやすい環境づくり ①スタッフ、コース主任専任、専任教員の役割分担を明確にし、各コースがスムーズに運営できるようスタッフのサポート体制を確立する。 ②①を実現するためのSDへの取り組みを強化する。 ③教職員の業務負担を軽減し、時間外労働を減らし、メリハリのある業務組織の確立をめざす。</p> <p>3.3年制コース比率拡大 グローバル人材を育成するため2020年度以降英語力アップを中心に据えた3年制中心のコース開発を行い、学校案内書に反映させる。</p> | <p>1.新型コロナの影響や大学進学ニーズの高まりもあり、入学者減少が続く。学生へのサービスや教育の質が落ちないように高水準を引き続き維持しつつ特色・魅力のある学校、教育のしくみづくりを推進し力のつく授業を展開していく。</p> <p>2.業務遅延による超過勤務、残業はやや減少した。スタッフ間の業務量を調整し、計画的に業務を遂行することにより慢性的な長時間労働を解消していく。専任教員とのコミュニケーションをさらに強化し、意思疎通をはかる。専任教員の業務標準化に取り組み、担当コマ数を一定基準に揃えていく。</p> <p>3.エアライン、英語に続きホテル分野において3年制コースを開設。業界からのニーズに応えるため順次この比率を拡大し、2年制から3年制主体の運営体制への移行を推進し、学校の特徴、強みとしていく。これまで取り組んできた専門学校事業、留学生事業に加え、あらたに高校事業に進出予定。高等部を開設し、15才のマーケットに進出する。</p> | <p>1.学力の二極化に対応するため、上位層と下位層へのアプローチを強化していく。教員間の授業見学を活性化させ、教授力の向上、新任教員への研修を充実させ、担任力を高めていくとともに在学期間中無償貸与するノートPCを活用しICT教育を推進する。また入学時の目標設定シートや中間評価などを活用して継続率（進級率、卒業率）の向上、休退学防止に取り組んでいく。</p> <p>2.教職員間の役割分担を明確化し、チームで業務を行い、業務を効率化していく。各部署間の情報共有や連携を強化し、業務の遅延を防ぐ。また学内のグループウェアやアプリ活用を促進し、情報伝達速度を早める。教員の能力や適性に応じた人員配置を検討する。</p> <p>3.3年制コースでは特色のある質の高い英語教育を提供し、人間力も備わった真の国際人を育成し、企業連携を推進しながら進路実現につなげる。2年制課程では実現できない3年制ならではの出口を確保していく。また、社会情勢や在籍者数に応じてコース、専攻の統廃合もあわせて遂行していく。</p> |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 瀧山 淳一 |
|--------|-----------|-------|-------|

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--|
| <p>理念に応じた課程、学科設定が必要であり、関連業界からの協力を得ながら業界が求める人材を輩出していくことが求められる。専門学校として特色ある教育活動に取り組み、実践的な授業を多く取り入れつつ、中期的な視点も併せ持ちながら運営していくことが重要である。今後は教育課程編成委員会、企業連携授業、各コースで実施される学修成果発表会等を通じて、多くの企業様と接点を持ち、業界の動向や人材ニーズをいち早く捉え、教育課程編成や授業計画策定に取り組んでいく。また学校の将来構想を学生や教職員だけでなく、保護者や関連業界にも広く周知する場を設け、協力体制をさらに拡大していく。今後も業界が求めるグローバル人材を多く輩出できる専門学校を目指し、業界で長く活躍できる真の国際人を輩出し、進路に強い語学・観光系専門学校としての地位を確立する。また、アドミッションポリシーを明確化し、目的意識が高く、将来の目標が明確な学生を中心に学生募集を行い、成果（就職・編入実績）を出す体制を確立する。</p> <p>【2022 年度スローガン（テーマ）】 「国際力×専門力×人間力×ICT 情報活用力＝国際派進路の実現（＝進路に強い国際外語） ～業界で長く活躍できる真の国際人（グローバル人材）を輩出し進路に強い専門学校として関西No.1 となる～」</p> | <p>英検対策講座や大阪府委託事業「グローバル体験」の実施継続を通じて、高校への認知拡大をはかる。 高校生や保護者の観光分野進路への不安を払拭するため、企業と連携した授業の実践や指定校推薦制度を利用した就職の実現など「出口が見える化」を実現する。 日本人と多くの留学生と一緒に学ぶ教育環境や日本人、留学生が共同で運営する学生会活動、ボランティア活動などを通じて人間力を養成するなどあらたな強みを学生募集にも反映させる。</p> <p>学校法人山口学園の専門学校として ECC コンピュータ専門学校、ECC アーティスト美容専門学校、ECC 国際外語専門学校日本語学科とともに学園の教育理念、教育目的を共有し方向性を統一している。</p> <p>留学生が日本語と専門スキルを学ぶ「専門課程留学生コース」、主に日本人学生の大学編入指導を行う「進学指導センター」、学園全体の語学力向上に努める「GEC（グローバルエデュケーションセンター）」などの各部門とともに教育理念、教育目的を共有し、品質を均一化したうえで学生サポートを行っている。</p> <p>2号館にて運営を行う日本語学科、国際コミュニケーション学科は主に留学生の日本語教育及び進学のためのコースであり、学園の理念、目標に則り、進学先の専門教育ひいては、将来の職業に結びつけるための高度な日本語能力の養成と心豊かな人材育成を行う。</p> |

最終更新日付

2023 年 8 月 4 日

記載責任者

瀧山 淳一

1-1 理念・目的・育成人材像

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--|--|---|---|-------------------------|
| 1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか | 理念に沿った目的、育成人物像を設定している。また理念に応じた課程、学科設定を行うことを方針としている。 | 理念等は明確に文書化し、様々な手段をもって公表している。専門分野特性も明確になっている。 | 理念等の浸透度を確認する方法を確立する。また必要に応じて適宜見直しを行う必要がある。 | 学則、学校HP、学校案内用印刷物、学生用印刷物 |
| 1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか | 関連業界のニーズを理解し、それに見合った人材を輩出していくため関連業界の協力を得られる連携体制を維持していくことが必要と考えている。 | 学科ごとに関連業界が求める人材要件を明確にしている。企業連携を通じて業界の動向をいち早く捉え、教育課程や授業計画策定を行っている。 | 教員採用や教材開発において関連業界等からの協力を得る必要がある。企業様への定期的な訪問やアンケートを通じ、最新情報の収集に努める。 | 学校HP、学校案内用印刷物、学生用印刷物 |
| 1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか | 特色ある教育活動に取り組むことこそが専門学校が社会から求められているものと認識し、存在意義を明確にしていく方針である。 | 関連業界のニーズを把握し、社会、業界が求める人物像を確認し、実践的な授業を取り入れ、特色ある職業実践教育を行っている。 | 英語力向上、ICT教育の推進を柱にさらに力がつく授業を提供していく必要があるとともに企業連携を推進し教育のしくみを構築していく。 | 学校HP、学校案内用印刷物 |
| 1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか | 3～5年先の学校の姿を思い描き、中期的構想を学科構成や教育活動に反映させることを方針としている。 | 学園中期経営計画を作成し、全体会議を通して職員間で共有し、年度ごとの運営を行っている。 | 学校の将来構想を学生、保護者、関連業界に周知する機会を確保する必要がある。学生アプリや保護者アプリ等を活用し定期的な情報発信に努める。 | 学園中期経営計画 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| 今後さらに業界や企業との連携や教育提携を拡大し、多くの実践的な授業を取り入れ、業界が求める人材、業界の第一線で長く活躍できる人材の育成を推進し、進路に強い専門学校、高い語学力が身につけられる専門学校として受験生、保護者、高校教員、社会、企業から選ばれる学校を目指していく。 | 人材育成目標の設定や見直しを行い、学生や教職員間において共有に努める。教育課程編成委員会は年2回開催しており1回目は次年度カリキュラムの素案が完成する7～8月頃実施し、実際に授業見学など学修成果を確認していただきながら導入予定のカリキュラムに対して意見交換を行っている。 |

最終更新日付

2023年8月4日

記載責任者

瀧山 淳一

基準 2 学校運営

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|---|
| <p>学園、学校の示す方向性をいち早く教職員間（職員・専任教員・非常勤講師）において共有し、浸透させていくことが必要である。長期、中期、短期とそれぞれの視点で事業計画を作成し、各部署間にて共有している。職員の評価は目標管理制度に基づき、年2回の面談を通じて適正に評価を行っている。教員（専任教員）とは、年1回以上の面談を通じて評価を行っている。今後も適材適所の人員配置を最優先し、教職員が能力を最大限に発揮できる体制を構築するとともに各種システムを整備し、業務の効率化を推進していく。</p> <p>教員への研修を充実させ、力のつく授業、質の高い最先端教育を常に提供できるようにするとともに定員管理、留学生在籍管理などより健全な学校運営と経営が求められるため「自己点検評価→学校関係者評価」のサイクルを活用し、教育の質を向上させ、学修成果を可視化し、速やかに情報公開できるよう学内の体制を整備していく。</p> <p>現在取り組んでいる ICT を活用した教育もさらに多方面に展開するため、学内のサーバーやネットワーク環境を強化し、新型コロナウイルスの感染拡大の際に速やかに質の高い遠隔授業を提供できるよう体制を継続していく。全学生に対し、在学期間中にノート PC を無償貸与する体制を整備し、「ICT も学べる学校、ICT 教育に強い専門学校」をめざしていく。また全学生がノート PC をフルに活用し、いつでもどこでも学べる、自分のペースで学べる、何回も学べるなど ICT 教育の強みを取り入れていく。</p> <p>コロナ禍においてオンライン授業やオンライン留学、オンライン成果発表会、オンライン定期試験、就職活動時のオンライン面接、担任によるオンライン個人面談など ICT を活用する場面はますます広がっている。今後も学びを止めず、学修機会を提供し続けるため ICT 技術を積極的に取り入れていく。</p> <p>あわせて、フィリピン人教員が担当する3年制コースを中心とした英語教育も学校の特徴、強みとして教育品質を高めていく。</p> | <p>ECC 学園高校（広域通信制）のサポート校として、ECC 国際外語専門学校高等部の募集を開始し、2023 年4月開講。グローバルスタディーズコース（3年制）。「大好きな英語を自分らしくとことん学びたい」新たな層を受け入れる。</p> <p>また、検定合格実績や進路実績などの教育成果を外部に積極的に発信することにより、学校一丸で募集活動を支援し、学生数の回復に努める。今後は高等部からの内部進学者、日本語学科で学ぶ留学生の内部進学のみづくりを行うとともに大阪府内の中学生、高校生を対象とする大阪府委託事業「グローバル体験」についても実施を継続し、引き続き社会的評価と学校認知度の向上に努める。</p> <p>卒業生との連携やつながりを強化し、卒業生の立場から学校（母校）に対して意見や提案ができる体制を整備していく。校友会の充実や卒業生アプリの活用を通じてより多くの卒業生と接点を持ち、関係性を深めていく。2021 年度から結成したプロジェクトチームを中心に「卒業生プロジェクト」として英語コンテンツの配信や定期的な情報発信を行った。今後も組織的に学内イベントの案内や卒業後のキャリアセンター利用についても情報発信していく。</p> <p>日本語学科については法務省の日本語教育機関の告示基準にも沿って運営を行う。2022 年度にようやく留学生が入国できるようになったため、6 月以降は全てオンライン授業を無くし対面授業形式で運営している。</p> |

最終更新日付

2023 年 8 月 4 日

記載責任者

瀧山 淳一

2-2 運営方針

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-------------------------|---|---|--|------------|
| 2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか | 理念、教育目標、事業計画を踏まえて運営方針を明確にし、全教職員に周知することを方針としている。 | 学校運営方針は年度ごとに作成され文書化し、年度当初の全体会議にて全教職員に周知している。 2022年度から年1回の方針発表、共有の場を後期開講前にも設定し、学内の教職員間の意思疎通をはかった。 | 運営方針の組織内での浸透度を確認する手段を確立する。方針を徹底させるため再度周知、共有する場を設ける。 2023年度より前期期間中に専任教員との面談機会を設け、方向性の確認と共有を行う。 | 運営方針、事業計画書 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| 学校運営を円滑に進めるため、学園の方向性を示す教育目標、人材育成目標、事業計画を早期にかつリアルタイムに明示していく必要がある。コースデザインMTGも活用し、各コース内において専任教員に対しても方針の徹底をはかる。 | 教職員は学園内の教職員向け掲示板（GS）、非常勤講師はアプリ、在校生と保護者もアプリを通じて必要な情報はリアルタイムに共有している。 |

最終更新日付

2023年8月4日

記載責任者

瀧山 淳一

2-3 事業計画

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------|--|---|----------------------------------|------------------------|
| 2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか | 長期・中期・短期の視点で数値目標を明示し、適切な実施計画を定め、進捗状況を確認しながら適宜見直しをすることを方針としている。 | 事業計画は年度ごとに各部署にて作成したものを一本化し、全体会議にて共有される。年度途中には進捗確認の場を設けており適宜修正される。 | 各部署ごとの次年度以降の事業計画を早い段階で共有する場を設ける。 | 事業計画書（運営方針、組織目標）、業務分掌表 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--|
| <p>執行状況は各部署にて進捗管理を行い、月ごとの状況は定例の理事会や学内理事会、学園長会議、学園評価会議等で報告される。また学内理事会での決定事項や新たな方針は、学校内の責任者会議において各部署責任者に共有される。業務計画作成にあたっては、社会情勢や学生、業界ニーズを認識した上で、それらを踏まえて取り組むべき施策や解決すべき課題を反映させている。また、上記を要約した「事業報告書」を毎年度作成し、理事会にて決議、承認を得ている。</p> | <p>年度ごとの進捗は8月の学園運営中間報告会、3月の学園運営計画発表会にて全職員に共有される。また、PDCAのサイクルに基づき、前年の振り返りを行い、実績の検証を十分に行い、系列校の好事例も参考にしながら次年度の目標や事業計画を作成している。また各部署、各コースに定期的にMTGを行い、業務の進捗確認の場を設けている。</p> |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 瀧山 淳一 |
|--------|-----------|-------|-------|

2-4 運営組織

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------|--|---|---|---------------------------------|
| 2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか | 学校法人山口学園は寄附行為に基づき組織運営を行うことが基本的な考え方である。 | 寄附行為に基づいて理事会、評議委員会適切に開催している。(3月・5月・10月)理事会・評議委員会においては必要な審議を行い、適切に議事録を作成している。寄附行為を改正する場合は、適正な手続きを経て改正している。 | | 山口学園寄附行為、理事会・評議委員会議事録、理事・評議委員名簿 |
| 2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか | 理念や教育目標達成のため各部署の役割を明確化し、学校運営組織を構築、整備することが必要と考えている。 | 業務部署ごとに役割や目標を明確にして組織を構築し、年度ごとに見直しを行っている。 | 学内で開催されるすべての会議において毎回会議議事録を作成し、速やかに共有する。 | 事務分掌規定、会議議事録 |

| 中項目総括 | 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等) |
|--|---|
| 教員と職員の業務範囲を明確にするよう努めている。事務業務が多様化し、より教育活動を支援していくため研修会やイーラーニング教材による研修を実施し、意欲や資質の向上に努めている。意思共有、方針決定のための会議は各部署、各コースごとに定期的行われている。 | 2023年度からは進学指導センターを教務課内、GECを英語課内に統合、2号館2階で展開していた留学生コースも1号館での運営に変更し、より一体となった運営を目指す。 |

最終更新日付

2023年8月4日

記載責任者

瀧山 淳一

2-5 人事・給与制度

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------|--|--|---|---------------------------------|
| 2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか | 教員の採用に関しては学生数の変化に対応し適切な基準を設け採用することを方針としている。給与に関しても評価基準を設定し適切に運用することになっている。 | 採用基準、条件については適切に提示している。給与支給等については就業規則に規定を明確化している。2022年度からは主任専任教員に対し、「目標設定シート」を導入。 | 昇給、昇格の基準を明確にし、開示していく必要がある。2023年度から評価のタイミングを通期だけではなく、前期末にも面談機会を設定。 | 就業規則、人事規定、給与規定、人事考課規定、採用広報活動印刷物 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| <p>職員の評価は学園内の目標管理制度に基づき、設定した目標に対しての成果判定と所属長との面談により年2回評価を行っている。教職員の組織体制は原則年1回見直しを行い、適材適所で人員を配置している。教職員の採用については中期的な視点、活躍の場を想定したうえで人材の確保に努めなければならない。職員に関しては学園全体で人材開発に取り組み、個人の能力や適性が最大限に発揮できるよう学園、学校の枠を超えた積極的な人材交流、将来を見据えたジョブローテーションが必要である。業界出身者である専任教員を教育現場で起用するには、新任教員採用基準の明確化と新任教員研修、フォロー面談等を充実させ学生から信頼の厚い教員へと成長するまでサポートを継続していくことが必要である。</p> | |

最終更新日付

2023年8月4日

記載責任者

瀧山 淳一

2-6 意思決定システム

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------|---|--|---|-------------|
| 2-6-1 意思決定システムを整備しているか | 意思決定のためのルール、権限、責任、分掌、プロセスを明確にし、明示したうえで共有することを方針としている。 | 年度ごとに作成される学内の運営体制図によって各部署の責任範囲や分掌が明確にされ、教職員間で共有されている。後期開始前にも全体オリエンを設定。 | 人事体制の早期確定と運営体制図、学校内組織図、業務分掌表の早期公開に努めるとともに全体会議の場で丁寧な説明を行い、各部署や個人の役割を明確化する。 | 学園組織図、学校組織図 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 各個人の意見や提案は所属部署内で協議され、各事業の立案は部署責任者を通じて学校長に上申する仕組みを整えており、学内の責任者会議等で協議される。決定した内容は学内理事会等で協議、承認され実行へと移される。 2021年度からは責任者会議の1回を「学校評価委員会」として開催し、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会での意見や課題の共有や実行、改善に努めるためのプロセスを確認している。 | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 瀧山 淳一 |
|--------|-----------|-------|-------|

2-7 情報システム

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|---|---|---|-----------|
| 2-7-1 情報システム化 に取組み、業務の効率 化を図っているか | 情報システムについては最新 の状態を維持し、常に良好な状 態を保ちつつ業務効率化を図 ることが必要と考えている。 | 学籍、成績、出席、学費を統括 管理する学生管理システム、給 与管理システム、財務管理シス テムの3系統の基幹システム を整備している。 | 基幹システムでは補いきれな い案件への対応と入学から卒 業さらに卒業後まで連携する システム設計が必要である。入 学者対象 AO エントリー受付 システムを改修中。 | システム運用規則 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--|
| 学内にて使用する情報システムについては、学園基幹システムの構築及び運用サポート全般を担う情報システム課を学園サポート本部内に設置し、システムのメンテナンス、セキュリティ管理を行っている。またデータの更新は事業年度ごとに行っている。現場のニーズを学園内で共有し、システム構築に反映させるしくみづくりが必要である。情報システムを活用するにあたっては個人デバイスの学外への持ち出しやフリーWifiへの接続に関する注意喚起を行うなどセキュリティ面を強化するとともに全教職員、学生に対し個人情報保護の意識向上にも取り組む。 | 事務業務の多様化、複雑化に対応するため職員の業務負担軽減と学生サービス向上の観点からさらに情報システムの整備を進めていく。ICT 部門専門の職員を配置し、学園情報システム課と連携しながら終日教職員、学生の運用サポートやIT機器の保守や管理にあたっている。 日本語学科に関しては、別途留学生に特化したシステムを 2023 年度より導入する予定。 |

最終更新日付

2023年8月5日

記載責任者

瀧山 淳一

基準 3 教育活動

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| <p>理念に沿った教育目標、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーは、入学式時のオリエンテーションで学生・保護者へ伝達している。教育到達レベルを明確にするため、カリキュラムマップをコースごとに作成した。</p> <p>教育課程に関しては、学校目標のもと、毎年教育課程編成委員会からの意見や社会情勢を加味して見直しを行っている。2022年度はICT活用力に関して、ICT系No.1資格であるICTプロフィシエンシー検定3級合格に向けて、1年間の対策授業を導入した。</p> <p>授業評価については、年間4度の授業アンケートを実施し、担当授業教員へのフィードバックを行っている。加えて、対面授業再開の影響やICT活用にある授業の質向上により、授業満足度は過去最高水準となった。</p> <p>成績評価・修了認定基準はハンドブックに記載しており、年度初めのオリエンテーションにて学生に配布・説明しており、科目ごとの成績評価基準はシラバスを配布した上で各授業内において説明されている。学園全体の成果発表の機会としてGEAを開催しているほか、コースごとで専門分野での成果発表の機会を年度末に設定している。</p> <p>英検協会より文部科学大臣賞を6年連続受賞しており、英検資格取得においては教職員が意識して取り組んでいる。TOEICに関しても、就活に必要なスコア取得に学生が目標を持って取り組めるように、夏と春に集中講座を設定するなどしている。ELC (English Language Center)で英検取得やTOEICスコアアップのプログラムも多数用意しており学生の学修意欲を掻き立てるような仕掛けも行なっている。</p> <p>教員資質向上に関しては、学生対応の研修に取り組んだ。2023年度からは「授業モデル」を設定し、研修を行っていく予定。組織体制については、コースごとに業界出身者のコース主任と学校運営側のコース担当が協力してコース改善を行う教職協働の仕組みをつくり、学生指導からカリキュラム作成、学生募集までを連携して行っている。</p> | <p>コース全体の柱になりつつある3年制コースは2020年度にスタートした国際エアラインコースに加え、2021年度からグローバル英語コース、2022年度から国際ホテルコースと拡大を続けている。そのため、対面で行なうフィリピンのセブ島から呼び寄せた教員を3人から4人体制、それにプラス現地のセブ講師4名の8名体制で対面とオンラインの組合せで授業運営を行なった。担任はそれぞれのコースに配置しているが、1年次はほとんどが英語の授業で占めるために、英語の指導及び学習管理を講師トレーナーの経験のある職員を宛がい、学生ひとり一人に1週間の学習管理や面談、補講など実施し、手厚いサポートを行なっている。</p> <p>本校では週15コマの授業の内、7コマを基本英語科目として、資格対策授業（英検/TOEIC）と英語コミュニケーション授業を提供している。全てレベル別クラス編成にしており、資格対策授業では、1年次は英検2級までを基礎固めとして指導を行ない、2級取得者はTOEIC授業を履修するカリキュラムを配している。これはTOEICの授業にスムーズについていけるようにするために、ビジネスレベルのTOEICの中身を理解するに必要な配置である。またTOEICの上級クラスは英検準1級も指導し、ハイレベルの資格対策にも対応している。</p> <p>日本語学科では学生の国籍・学習ニーズは多様化しており、毎年シラバスの見直しを行い対応していく。</p> |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月5日 | 記載責任者 | 大谷内 圭 |
|--------|-----------|-------|-------|

3-8 目標の設定

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------------|--|---|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか | 教育目的に沿った目標からの教育課程の編成や実施フローの策定が重要だと考えている。 | 教育目的からディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを作成し教職員・学生・保護者に伝えている。 | | ハンドブック |
| 3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか | 2年～4年の修業年限に応じた、教育到達レベルを教職員・学生と共有することが重要と考えている。 | ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーの見直しを行った。カリキュラムを見える化するためコースごとにカリキュラムマップを作成した。 | 2023年度はカリキュラムマップを学生指導（面談等）に活かしていく予定。 | コースゴール、コースデザインMTG議事録、ハンドブック、カリキュラムマップ |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 理念に沿った教育目標、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーは、入学式時のオリエンテーションで学生・保護者への伝達を行っている。教育到達レベルを明確にするため、カリキュラムマップをコースごとに作成した。 | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月5日 | 記載責任者 | 大谷内 圭 |
|--------|-----------|-------|-------|

3-9 教育方法・評価等

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-------------------------------|---|--|--|---|
| 3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか | 毎年、目的・目標に沿ったカリキュラムになっているかを検証することが重要だと考えている。 | ディプロマポリシーに沿ったカリキュラムが展開されているかを教職員と毎月の会議にて見直しを行っている。 学生へは、オリエンテーションを通じて、教育目的・目標に沿ったカリキュラムであることを説明しているが、より理解させる方法を検討していく。 ICT 活用力の強化として、ICT系 No.1 資格である ICT プロフィシエンシー検定 3 級合格に向けて、1 年間の対策授業を導入していく。 | カリキュラムマップを作成することで、日々現状を確認させることができ、かつ担任面談時に活用することで、目指すべき人材像を理解させやすくなる。どこまで深く活用できているかの検証が必要。 | ハンドブック World in focus シラバス P 検シラバス オンデマンドコンテンツの一覧表、カリキュラムマップ |
| 3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか | 実社会のニーズを踏まえた教育課程の編成をすることを重視している。 | 「教育課程編成委員会」の外部委員より教育課程に関する意見をいただき、毎年修正を加えている。委員会では委員の皆様へ授業を見学いただいた上で、ご意見を頂戴している。いただいた意見の具体的対応を第 2 回教育課程編成委員会にて発表し、カリキュラムに取り込みを行った。 | | 教育課程編成委員会議事録 教育課程編成委員会の意見活用 |

| | | | | |
|----------------------|---|---|---|----------------|
| 3-9-3 キャリア教育を実施しているか | 実社会へのスムーズな移行のためにキャリア教育はより力を入れていきたいと考えている。 | 職業観のあるコースでは授業や日常生活で担任により教育できているが、語学系コースでは、キャリア教育に触れる頻度が少ない。そこで、2021年度後期より総合英語コース入学年次生を対象に「キャリアリサーチ」授業を新規開講した。計6企業/団体を招き、セミナーを実施することで、職業についての見識を深め、職業観を養えるよう努めた。 | 今後は「キャリアリサーチ」授業の内容を再度精査していくと共に、実施内容については録画する等のオンラインコンテンツ化し、学内で共有の上、エアラインコースやアジア言語コースなど他コースへの指導にも活用していく。 | 「キャリアリサーチ」シラバス |
| 3-9-4 授業評価を実施しているか | 教育力向上には、評価は欠かすことができない要素であり、今後も重視していくことが重要だと考えている。 | 年間4度の授業アンケートを実施し、担当授業教員へのフィードバックを行っている。 前後期ともに学生の理解度を図る目的で中間評価を実施していることで、学期の途中で授業内容の軌道修正をすることができる。 対面授業再開の影響や ICT 活用にある授業の質向上により、授業満足度は過去最高水準となった。 2022年度前期：4.41/5.0、 2022年度後期：4.37/5.0 | アンケート内容を踏まえて Class Visit や面談を実施し、早期で改善できるように対応している。 | 授業アンケート結果 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|---|
| <p>教育課程に関しては、学校目標のもと、毎年教育課程編成委員会からの意見や社会情勢を加味して見直しを行い刷新している。キャリア教育強化に向けて、「キャリアリサーチ」授業を新規開講した。計6企業/団体を招き、セミナーを実施することで、職業についての見識を深め、職業観を養えるよう努めた。今後は他コースでも導入を検討していく。</p> <p>2022年度はICT活用に関して、ICT系No.1資格であるICTプロフィシエンシー検定3級合格に向けて、1年間の対策授業を導入していく。授業評価については、年間4度の授業アンケートを実施し、担当授業教員へのフィードバックを行っている。</p> <p>加えて、対面授業再開の影響やICT活用にある授業の質向上により、授業満足度は過去最高水準となった。</p> | <p>【日本語学科】対象が留学生であるため授業評価授業アンケートの意義や目的や十分に伝わりきらないという事情がある。コメントに関しては、母国語で記載可にしている。</p> |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 榊原 悠祐 |
|--------|-----------|-------|-------|

3-10 成績評価・単位認定等

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------------|---|---|---|--|
| 3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか | 基準を明確化し、全教職員が基準に従って修了の認定を適切に行うことを方針としている。 | 成績評価・修了認定基準はハンドブックに記載しており、年度初めのオリエンテーションにて学生に配布説明している。科目ごとの成績評価基準は各授業で説明されている。高等教育の無償化申請に伴いGPA分布の検証を実施している。 | | ハンドブック、シラバス |
| 3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか | 技術（学修成果）の発表機会を多く持ち、教育成果を内外共に把握していくことが必要だと考えている。 | 英語スピーチコンテストや年度末に行われる英語での学修成果発表会（GEA）、コースごとで、専門分野での成果発表の機会を年度末に設定している。 | GEA は学園挙げての年度末のプレゼンテーションコンテストであり、留学生は日本語、それ以外は英語で発表する機会を与えている。課題としては学園全体のイベントにも関わらず学生全体の意識が低いこと、それにより観客動員数が低いこと。解決策としては告知とイベント内容の興味付け、学校対抗の応援合戦など工夫を凝らす必要がある。成果発表会を実施するにあたり、関連企業様に審査員としてご参加頂く機会を増加し、より本校の特徴や専門力を発信していく。 | パンフレット、ラポール実施報告書、接遇コンテスト報告書、ビジネスコンテスト報告書 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 成績評価・修了認定基準はハンドブックに記載しており、年度初めのオリエンテーションにて学生に配布説明しており、科目ごとの成績評価基準はシラバスを配布した上で各授業内において説明されている。 学園全体の成果発表の機会としてGEAを開催している他コースごとで専門分野での成果発表の機会を年度末に設定している。 | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 榊原 悠祐 |
|--------|-----------|-------|-------|

3-11 資格・免許の取得の指導体制

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------------------|--|---|---|-----------------------------|
| 3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか | コースの特性を精査し、それぞれのコースに必要な専門の資格や目標とする英語資格（級やスコア）を設定し、カリキュラムに落とし込んでいる。 | コースゴールに目標とする資格が設定されており、取得までのフローも教職員間で共有されている。取得すれば担任による合格インフォメーションを積極的に外部に発信している。 | 学生の英語資格取得状況を月 1～2 回にコース主任会議で開示し、特に 2022 年度より設けた進級基準（英検準 2 級もしくは TOEIC450）を意識し、学生面談に活かしている。 | コースゴール |
| 3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか | 共通英語科目 7 コマの内、3 コマを資格・検定対策授業に充て、英検は検定協会より文部科学大臣賞受賞を目指し、TOEIC では 80%の学生が卒業までに 600 点以上を取得することを目標としている。 | 週 15 コマのうち、3 コマを資格対策としている。入学前の取得資格、英語クラス編成試験の結果等から基礎力強化クラス、英検準 2 級クラス、2 級クラス、TOEIC クラス、準 1 級クラスのレベル別編成クラスを配置。英検の級を合格する度に上の級のクラスにレベルアップさせ、学生のモチベーション向上に寄与している。 | アジア言語コース韓国語専攻は 1 年次の夏より韓国留学をする学生が多数おり、英語力基礎レベルの学生が大半を占めているこのコースの英語力増強が課題。韓国人の担任の他に英語指導ができる専任教員を副担任に迎え、この課題に取り組んでいる。 | カリキュラム表、ELC プログラム、EIP プログラム |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| 英検協会より文部科学大臣賞を 6 年連続受賞しており、英検資格取得においては教職員が意識して取り組んでいる。TOEIC に関しても、就活に必要なスコア取得に学生が目標を持って取り組めるように、夏と春に集中講座を設定するなどしている。ELC (English Language Center) で英検取得や TOEIC スコアアップのプログラムも多数用意しており学生の学修意欲を掻き立てるような仕掛けも行なっている。 | 2022 年度からは対面授業が本格稼働でき、オンラインでは味わえないひとり一人に目配せや配慮、クラス全体をオーガナイズできる LIVE 授業を展開できた。改めて英語力向上や資格取得への取り組みに意識を乗せたことが大きい。2021 年度のコロナ真っ只中よりも遥かに授業満足度も向上しており、対面式での授業形態の有難さを改めて感じた 1 年であった。また、コロナ禍で得た ICT 技術は対面でも併用して役に立っており、これも一つの大きな産物として今後の英語教育の新たなステップとして活用していきたいと考えている。 |

最終更新日付

2023 年 8 月 7 日

記載責任者

松井 治

3-12 教員・教員組織

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|----------------------------|---|--|---------------------------------|---|
| 3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか | 専門性向上のための要件を備えた教員確保を重視している。 | 担任、授業担当者、各々に必要な要素を重点的に確認し、採用活動を行っている。教員1人当たりの授業時間数を設定している。担当授業拡充のため、専門性以外の授業担当を学内研修後担当している。 | | コマ数基準表、新任教員マニュアル 新教員採用マニュアル |
| 3-12-2 教員の資質向上への取組を行っているか | FDへの取り組みを広げ、教授力を上げる取り組みを行うことが重要だと考えている。 | 教員資質向上の取り組みとして、学級集団形成のためのアンケートと研修、コーチング研修を実施している。 | 2023年度より、本校の授業モデルを設定し研修を実施する予定。 | 授業見学実施要領 教員研修実施要領 コーチング資料 学びあい授業見学概要 ICT導入成果発表会スライド |
| 3-12-3 教員の組織体制を整備しているか | 多くの学生に対応し、学修成果を出すために、組織作りや分掌策定を重視している。 | コースごとにコース主任（教員）とコース担当（職員）を置き、連携して教育体制を構築している。専任教員と職員の業務範囲を定めている。主任MTGの定期開催により情報の伝達体制を構築している。 | | 組織図 就業規則の改定 主任MTG議事録 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 資質向上に関しては、学生対応の研修に取り組んだ。2023年度からは「授業モデル」を設定し、研修を行っていく予定。組織体制については、コースごとに業界出身者のコース主任と学校運営側のコース担当が協力してコース改善を行う教職協働の仕組みをつくり、学生指導からカリキュラム作成、学生募集までを連携して行っている。 | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 大谷内 圭 |
|--------|-----------|-------|-------|

基準 4 学修成果

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| <p>全コースキャリアセンター主導の進路指導体制のもと、学生の就職指導を行うキャリアセンターとクラス担任が適時連携を取りながら学生の活動状況を把握し、計画的に指導を行っている。また個別指導強化の一環として指導担当制を導入し、学生一人ひとりの活動状況を適時確認し、また面談等を通じて個人の適性踏まえ適職を見出すことで、結果として最終の就職率は99.5%まで伸ばすことができた。</p> <p>英検では専門学校として頂点に立つ、文部科学大臣賞連続受賞を続けていくため、授業内での指導、授業を補完する ELC（English Learning Center）の積極的利用促進、TOEIC では卒業までには8割以上が平均スコアを600点に据えるなど、学生のみならず教員にも意識をさせた取り組みを行なっている。</p> <p>卒業生の社会的評価を把握する手段として、昨年度より引き続き2020年3月卒生以降、ECC 国際外語生採用実績企業に対して、卒業生の能力評価アンケートを実施し、回答いただいた。昨年標準レベルであった項目については改善が見られており、今後も頂戴した意見をカリキュラム向上、並びに学生指導に反映していく。</p> | <p>学生全員が参加できるプログラムとしてセブ島留学（8月・9月、2月）、イギリス留学（2月）を提供しているが、2022年度もコロナ禍のため実施できず。代替プログラムとして、オンライン留学を夏に実施。翌年春に2019年度以来の渡航型短期留学を実行することができ、イギリスに23名、セブ島に10名が参加し、久しぶりの海外を存分に満喫することが出来た。また、2021年度の報告には間に合わなかったが、英検協会から2021年度の文部科学大臣賞を受賞することができ、これで6年連続の快挙となった。</p> <p>【日本語学科】 学習ニーズの多様化により検定試験の取得に積極的でない学生が増えてきている。受験促進の仕組みを考えると同時に、検定試験に替わる実績可視化の仕組みを検討する必要がある。</p> |

最終更新日付

2023年8月4日

記載責任者

大谷内 圭

4-13 就職率

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-----------------------|---|---|---|---|
| 4-13-1 就職率の向上が図られているか | 学生一人ひとりの能力や適性に応じた就職指導を行うことで、就職率100%を達成する。加えてコース特性を活かした就職を実現させる。 | 2022年度は新型コロナの影響が緩和され、前年に比べ求人数が大幅に増加した。特に空港業界でも新卒採用が本格的に再開となり、全コース業界就職を目指していける環境での就職活動となった。その中で学生一人ひとりの進路実現に向けて指導担当制を導入し、面談等を通じて個人の能力や適性を把握することで、適切な求人提供～学生指導へと繋げた。結果として3月末における就職率は99.5%と昨年を上回る結果となった。 | 2022年度は求人が回復したものの、既卒生を含む応募者が集中したことから必然的に合格基準が高くなり、空港業界を始め競争率の高い年となった。また採用活動時期も、昨年に比べ早期化している。以上の点から、厳しい就職活動を勝ち抜き就職実績向上を目的に、「企業ニーズに対応した指導」「入学年次からの指導強化」の2点を課題と捉え、次年度改善に繋げていく。 | 年間就職指導計画表、過去3年の就職者・内定先・就職率データ、学生の就職活動報告書、学内企業説明会実施一覧表 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| 2022年度は全コースキャリアセンター主導の進路指導体制のもと、学生の就職指導を行うキャリアセンターとクラス担任が適時連携を取りながら学生の活動状況を把握し、計画的に指導を行っている。また個別指導強化の一環として指導担当制を導入し、学生一人ひとりの活動状況を適時確認し、また面談等を通じて個人の適性踏まえ適職を見出すことで、結果として就職率は99.5%まで伸ばすことができた。 | 学生の就職活動支援策として、学内説明会の開催、並びに学校経由応募を推進している。また、就職保護者会を毎年10月に開催し、学校と保護者の連携を強めることで、三位一体となって学生の就職活動をサポートする体制作りを行っている。加えてWeb面接の増加に伴い、オンライン説明会・面接専用の個人ブース設置など受験環境の向上にも努めている。 |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 杉田 典彦 |
|--------|-----------|-------|-------|

4-14 資格・免許の取得率

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|----------------------------|--------------------------------|--|--|--|
| 4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか | 専門力を証明する資格・免許取得率の向上は重要だと考えている。 | 英語系資格に関してはコースごとに取得目標である英検の級、TOEIC のスコアを掲げている。レベル別クラスにより、英検各級の指導、TOEIC 指導により、学生は常に資格取得に向けて取り組んでいる。英検は団体受験が年 3 回以外に、各個人が申し込む S-CBT といった 4 技能を全て 1 日で受験できる英検もチャレンジしている。TOEIC-IP も本校では年 4 回実施しているが、TOEIC 公開テストも毎月行なっているため、個人で受験をして進路活動で英語力を証明するためのチャレンジをしている。 サービス接遇実務検定においては 2021 年度文部科学大臣賞を受賞したのに続き、2022 年度もこれまでの指導方法を活かし、高い合格率（準 1 級は学校全体で 89%）を維持し、団体優秀賞を受賞した。 コースに紐づく専門資格取得対策授業が非常勤講師に依存しているため、常勤教職員への F D を通じて授業を分担できるようにしていく。 | 入学者数が減少する中で課題として挙げられるのは英検の合格率の向上と TOEIC スコアアップ。2022 年度は全面的に対面式の授業形態に変わり、オンライン中心の 2021 年度よりも大きく実績を出す必要があったが、昨年対比をしても横ばい状態であった。週 15 コマの内、7 コマが英語の授業であるが、カリキュラムの見直しも考える必要がある。英語の土台となる Grammar の知識をもっと深掘りしベースとなる英語基礎力をつけていくことも今後を検討していく予定である。 教員は外部研修に参加したり、指導教員間での MTG を定期的に行ったり、検定前の集中授業（前倒し授業）を実施するなど FD 強化に取組み、幅広い分野を担当できるように進めていく。 | ハンドブック、コースゴール 英検直前対策実施要項 TOEIC セミナー サービス接遇検定文部科学大臣賞賞状、外部研修報告書 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--|
| 英検では毎年表彰される専門学校として頂点に立つ、文部科学大臣賞連続受賞を続けていくため、授業内での指導、授業を補完する ELC（English Learning Center）の積極的利用促進、TOEIC では卒業までには 8 割以上が平均スコアを 600 点に据えるなど、学生のみならず教員にも意識をさせた取り組みを行なっている。 | 2021 年度に引き続き「英検突破特別講座」を試験直前の土曜日にオンラインで行ない、学生たちは自宅にて受講できるよう配慮した。また、TOEIC 担当講師が情報を共有し、授業運営や手法について確認できるミーティングも開催し教授力を上げる機会を設けた。 |

最終更新日付

2023 年 8 月 4 日

記載責任者

松井 治

4-15 卒業生の社会的評価

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------|--------------------------------------|--|--|-----------|
| 4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか | 卒業生の状況を把握し、カリキュラムの向上を図ることが重要だと考えている。 | 2020年3月卒生以降、ECC生採用実績企業318社に対して、卒業生の能力評価アンケートを11月依頼し、96社より回答をいただいた。昨年に引き続き、専門分野に対する知識、語学力、礼儀マナー、チームワーク力、コミュニケーション力、勤務態度の6項目については「優秀」の評価を得たが、リーダーシップ力、プレゼン力、ITスキル、基礎学力の4項目においては、標準レベルに留まった。ただし、昨年に比べ基礎学力の項目については改善が見られた。 | この企業アンケートについては、引き続き定期的を実施していく。頂戴した意見については学内で共有の上、各部署と連携しコース運営や学生指導の改善を図っていく。また定期的な企業訪問を通じて、卒業生の状況把握に努めていく。 | 企業アンケート |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 卒業生の社会的評価を把握する手段として、昨年度より引き続き2020年3月卒生以降、ECC生採用実績企業318社に対して、卒業生の能力評価アンケートを11月に実施し、96社より回答いただいた。昨年標準レベルであった項目については改善が見られており、今後も頂戴した意見をカリキュラム向上、並びに学生指導に反映していく。 | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 杉田 典彦 |
|--------|-----------|-------|-------|

基準5 学生支援

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| <p>就職に関する専用指導室として「キャリアセンター」を設置し、クラス担任他関連教職員含め、教職員一丸となって日本人学生、留学生の就職活動を支援する体制を整備している。2022年度には就職支援力の強化を目的に、全コースの指導要領の見直し、改善を行った。</p> <p>学生の就職活動状況を把握するために就職支援システム「キャリアマップ」を活用している。</p> <p>退学率の低減は最重要課題として、全教職員が認識している。進級率95%、卒業率98%の目標を掲げ、学内イベントの充実、学期末には補講を細やかに実施している。加えて、期中面談回数増加、出席状況の確認頻度を増やし、早期発見、早期対応を強化していく。</p> <p>2023年度からは意欲低下を防ぐために、入学前教育の充実や初年次教育の導入を検討したい。</p> <p>学生相談に関しては、担任、教務課、キャリアセンター、学生相談室が協働して行っている。多様な学生が増える中、重篤な悩みを持つ学生をプロのコウンセラーにつなぐ役割が重要となる。留学生に対しては、各国の留学生を対応できる担当スタッフを置き、在留管理や日々の指導とサポート(診療可能な病院手配等)を行っている。期中に面談を全員と行い、長期休暇前には休暇中の行動についてオリエンテーションにて注意喚起を行っている。</p> <p>学生生活への支援は、経済面、健康管理面、学生寮、課外活動に関して実施している。</p> <p>2020年度、「高等教育の修学支援新制度」の認可を受け、支援を継続している。それぞれの支援拡充を学生ニーズに併せて、今後も対応していきたい。健康管理ではコロナ対策の一環として、入館時の検温・消毒を徹底した。また陽性者に対しては保健所の指導の下、学校復帰までは健康観察を毎日行い、館内消毒ならびに、関係者への情報伝達をリアルタイムで行った。</p> <p>休退学防止や学習意欲維持向上のために、保護者連携には重点を置いている。保護者アプリを登録していただきで学内情報を随時発信している。また保護者会では対面に加えて、オンライン、電話面談など選択肢を広げて対応した。</p> <p>卒業生の支援体制を整備する上で、卒業生の現状把握、および意識調査を目的としたアンケート調査を行うと共に、卒業生支援についてのプロジェクトを進めており、定期的に卒業生にとって有益と思われる情報の発信や卒業生支援の強化を図っている。</p> | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月5日 | 記載責任者 | 榊原 悠祐 |
|--------|-----------|-------|-------|

5-16 就職等進路

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------|--------------------------------------|---|--|--------------------------|
| 5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか | 学生の就職活動を支援するための就職支援体制を確立することを重視している。 | 就職に関する専用指導室として「キャリアセンター」を設置し、クラス担任他関連教職員含め、教職員一丸となって学生の就職活動を支援する体制を整備している。2022年度には就職支援力の強化を目的に、全コースの指導要領の見直し、改善を行った。 学生の就職活動状況について、就職授業内でキャリアマップを活用している。 | 2022年度より全コースキャリアセンター主導の進路指導体制を確立している。今後は3年制コース生並びに留学生の増加に伴う入学年次からの進路支援体制の整備を課題と捉え、対応していく。 キャリアマップにおいては就職活動状況の管理を中心に活用しているので、今後は応募において有効活用するよう学生指導していく意向である。 | キャリアセンター職務分掌表、就職対策授業シラバス |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 就職に関する専用指導室として「キャリアセンター」を設置し、クラス担任他関連教職員含め、教職員一丸となって日本人学生、留学生の就職活動を支援する体制を整備している。2022年度には就職支援力の強化を目的に、全コースの指導要領の見直し、改善を行った。 学生の就職活動状況を把握するために就職支援システム「キャリアマップ」を活用している。今後は、応募段階から活用できる体制を整える。 | |

最終更新日付

2023年8月5日

記載責任者

杉田 典彦

5-17 中途退学への対応

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-----------------------|-----------------------------------|--|--|--|
| 5-17-1 退学率の低減が図られているか | 退学率の低減を目標として掲げ、対策することが不可欠だと考えている。 | 学生面談結果等は学生カルテに情報入力、関係各位に共有し、出席率が低下した学生を各週で抽出し、早期把握・解決に努めている。(担任満足度 2021 年度：4.33 2022 年度：4.38) 特に注意が必要な案件については臨床心理士が常駐する学生相談室への共有も速やかに行われている。学習のつまずきによる意欲低下を抑制するために中間評価を実施。学生の居場所づくりとしてクラスワークやスポーツ大会や学園祭を実施。ハイパーQU アンケートにてクラスの集団分析を行い、注意が必要な学生に対して個別面談等でフォローアップを行っている。 | 新たな対策を講じたが、2022年度は前年に比べ、休退学率が悪化した。 意欲低下を防ぐために、入学前教育の充実や初年次教育の導入を検討したい。 出席や成績不良者かつ学生指導に悩む担任をサポートするチームを立ち上げ、担任をバックアップする体制を構築し、保護者とも連携を図りながら、退学率防止を目指す。 ※2022 年度：53 名。退学理由①意欲低下②体調不良(メンタル)。休学理由①進路変更(留学) ②意欲低下 | 中間評価実施要領、ハイパーQU 集団分析学生面談フロー クラスワーク実施手順 学内行事の実施要項 |

| 中項目総括 | 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等) |
|--|--------------------|
| 退学率の低減は最重要課題として、全教職員が認識している。進級率 95%、卒業率 98%の目標を掲げ、学内イベントの充実、学期末には補講を細やかに実施している。加えて、期中面談回数増加、出席状況の確認頻度を増やし、早期発見、早期対応を強化していく。2023 年度からは意欲低下を防ぐために、入学前教育の充実や初年次教育の導入を検討したい。 | |

| | | | |
|--------|----------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023 年 8 月 4 日 | 記載責任者 | 榊原 悠祐 |
|--------|----------------|-------|-------|

5-18 学生相談

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|----------------------------|---|--|--|--|
| 5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか | 個々の学生相談に対応する体制を構築し、学習への動機付けを行うことが必要だと考えている。 | 担任面談を新入生へ年 3 回 +問題があれば逐次実施し、学習への動機づけから、日常の悩みまで幅広く対応。学生面談結果等は学生カルテに情報を入力し週 1 度、教職員にて共有し、早期把握・解決に努めている。(担任満足度 2021 年度：4.33 2022 年度：4.38) 担任とコース担当の連携を強化し、チームで学生サポートをしていく。特に注意が必要な案件については臨床心理士が常駐する学生相談室への共有も速やかに行われている。 | コーチングのスキルを持っている教員からの研修機会を設け、教職員が適切な面談スキルを身に付けていく。 | ハンドブック、学生相談室案内 学生面談フロー |
| 5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか | 留学生の生活から学習面までの相談を受け付ける体制を構築することを方針としている。 | 各国の留学生に対応できる担当スタッフを置き、在留管理や日々の指導とサポート(診療可能な病院手配等)を行っている。期中に面談を全員と行い、長期休暇前には休暇中の行動についてオリエンテーションにて注意喚起を行っている。 | 指導対応が必要な留学生の母国(保護者・経費支弁者)との連携および、情報共有の体制が断片的なことがある。(連絡がとれない。学生状況の把握等)。母国語に精通した他部署教職員にて適宜対応している現状に加え、問題のある留学生の状況は、母国(保護者・経費支弁者)に報告することも検討したい。 | 留学生 HANDBOOK、留学生オリエンテーション資料、面談記録、留学生関連スケジュール |

| 中項目総括 | 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等) |
|--|---|
| 学生相談に関しては、担任、教務課、キャリアセンター、学生相談室が協働して行っている。多様な学生が増える中、重篤な悩みを持つ学生をプロのカウンセラーにつなぐ役割が重要となる。留学生に対しては、各国の留学生に対応できる担当スタッフを置き、在留管理や日々の指導とサポート(診療可能な病院手配等)を行っている。期中に面談を全員と行い、長期休暇前には休暇中の行動についてオリエンテーションにて注意喚起を行っている。 | 【日本語学科】カウンセラーが常駐している学生相談室の存在に関しては入学時や年度変わりに中国語(簡体字・繁体字)、英語、タイ語、韓国語、ベトナム語版の案内を配布。入学時のオリエンテーションでは必ず母国語または英語で紹介をしている。また日本語初級者には事務局職員が通訳者となり学習面や日常生活に関して全般的に相談にのっている。長期休暇中に関しては、事件、事故などの緊急電話連絡にも対応する。 |
| | 最終更新日付 2023年8月5日 記載責任者 榊原 悠祐 |

5-19 学生生活

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------------|--|---|-----------|--|
| 5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか | 経済的側面に関する支援を行い、学習継続の支援を行うことは重要だと考えている。 | 年初に学内奨学生を募集し、審査のうえ、奨学金を給付している。また留学生への奨学金制度も年1回選抜のうえ実施している。目標ライセンスを取得した学生に対して給付金を支給している。2020年度から「高等教育の修学支援新制度」を利用した支援を継続している。 | | 奨学生制度案内、留学生奨学生制度案内、ライセンス特別奨学生案内、高等教育の就学支援新制度冊子 |
| 5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか | 学生の健康管理を行い、心身ともに健全な状態で学習に打ち込める環境を提供することが必要だと考えている。 | 保健室を設置し、体調不良や怪我をした場合は、保健室教員（看護師）がケアする体制を構築している。新型コロナ対策の一環として、入館時の検温・消毒・換気を徹底した。また陽性者に対しては保健所の指導の下、学校復帰までは健康観察を毎日行い、館内消毒ならびに、関係者への情報伝達をリアルタイムで行った。 | | ハンドブック |
| 5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか | 生活環境支援体制を整え、学習に取り組める環境整備を重視している。 | 提携企業が所有する学生寮を案内し、食事やセキュリティ、入居中のケアができる体制を整えている。 | | 学生寮指定業者（司興産）パンフレット |

| | | | | |
|------------------------------------|---|---|--|---------------------------|
| <p>5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか</p> | <p>課外活動への支援を行い、充実した学生生活を送れるような環境整備は必要だと考えている。</p> | <p>クラブ・サークル活動を有志のもと運営しており、顧問をつけて活動している。サークルからクラブに昇格した場合は運営費を支給対象にしている。2019年度より「学生会」を発足させ、学生の意見を取り入れるようにしている。また学園祭や各種イベントも学生会が主体となり企画運営を行っている。</p> | <p>2023年度より「学生会」を日本人学生と留学生学生が共に在籍し、活動を行う予定である。自主開設が可能なクラブ・サークル活動が活発でないことが課題。</p> | <p>クラブ・サークル案内、学生会活動記録</p> |
|------------------------------------|---|---|--|---------------------------|

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| <p>学生生活への支援は、経済面、健康管理面、学生寮、課外活動に関して実施している。2020年度、「高等教育の修学支援新制度」の認可を受け、支援を継続している。それぞれの支援拡充を学生ニーズに併せて、今後も対応していきたい。健康管理ではコロナ対策の一環として、入館時の検温・消毒を徹底した。また陽性者に対しては保健所の指導の下、学校復帰までは健康観察を毎日行い、館内消毒ならびに関係者への情報伝達をリアルタイムで行った。</p> | <p>【国際コミュニケーション学科】JASSO奨学金の受給者枠減少により奨学金をもらえる学生が少なくなっている。ミャンマーやネパール、スリランカなど海外送金が難しい学生が増加傾向にある。入学審査の強化とともに学費分割等柔軟に対応する必要がある。</p> <p>【日本語学科】バディプログラム（日本語交流）をコロナ禍ではオンラインだったものを対面に切り替え週2回実施。また特別イベントも整備し、コロナ前と同様の形式に戻した。</p> |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月5日 | 記載責任者 | 大谷内 圭 |
|--------|-----------|-------|-------|

5-20 保護者との連携

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------|-------------------------------------|---|-----------|--|
| 5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか | 学校生活を充実させるために、保護者連携の体制構築は重要だと考えている。 | 入学式時に保護者オリエンテーションを実施し、学校の考え方について伝えている。また年2回保護者会を実施し、担任と二者面談にて学生の状況を伝える機会を作っている。コロナ対応に伴い、オンライン面談、電話面談と選択肢を増やして対応した結果 60%超の保護者とつながることができた。 年2回成績報告を発送している。また休学・退学希望時、問題発生時には保護者に来校してもらい、面談の上決定している。 なお、上記に加えキャリアセンターでは就職に特化した保護者会を留学前の保護者に向けた留学保護者会も実施している。 | | 入学式保護者オリエン資料、保護者会のご案内、成績発送について 保護者アプリ登録のお願い |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 休退学防止や学習意欲維持向上のために、保護者連携には重点を置いている。保護者アプリを登録していただきで学内情報を随時発信している。また保護者会では対面に加えて、オンライン、電話面談など選択肢を広げて対応した。 | |

最終更新日付

2023年8月4日

記載責任者

大谷内 圭

5-21 卒業生・社会人

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|-----------------------------------|---|---|------------------|
| 5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか | 卒業生への支援体制の整備は必要だと考えている。 | 2017年3月卒業以降の学生中心に、現状把握、並びに意識調査を目的にWeb環境にてアンケート調査を行い、166名から回答があった。また昨年度より卒業生支援についてプロジェクトを進めており、2022年度は、多くの卒業生から意見をいただいていた証明書発行のオンライン申請システムを確立した。また、在校生向け学校行事への卒業生の参加案内、業界で活躍する卒業生取材にも着手している。 | 引き続き卒業生との繋がり強化、連携を課題と捉え、プロジェクトを通じて卒業生に有益と思われる情報の発信や校友会の定期開催に努めていく。また、現在教員やキャリアセンターなど各々が把握している卒業生情報の統一化を課題と捉え対応していく。 | 校友会のご案内、卒業生アンケート |
| 5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか | 卒業後のキャリア形成支援等に取り組むことの重要性は理解している。 | 現状は再教育プログラムの作成や実施は行っていない。 | | |
| 5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか | 社会人教育への取り組みが求められていることについては認識している。 | 現状は働きながら学べるコースやプログラムは整備していない。 | | |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 卒業生の支援体制を整備する上で、卒業生の現状把握、および意識調査を目的としたアンケート調査を行うと共に、卒業生支援についてのプロジェクトを進めており、定期的に卒業生にとって有益と思われる情報の発信や卒業生支援の強化を図っている。 | |

最終更新日付

2023年8月4日

記載責任者

杉田 典彦

基準 6 教育環境

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| <p>教育力向上にむけ、ICTを含めた投資や設備営繕を進めていきたい。2021年度より学生に一人1台のデバイスの配布を行っている。オンラインにより学びが広がり、日本国内に居ながら海外とつながるプログラムに挑戦することができた。また Google アカウント、Microsoft アカウントを全学生に配布し、環境を整備した。英語学習の全般サポートを行う ELC、実践英会話練習ができる EIP への動員を啓蒙している。</p> <p>全コースに渡る留学プログラムや、各コースでの学外実習を重視しているが、コロナの影響でここ数年は機会を提供できなかった。ようやく海外渡航できる目途が立ったため、急ピッチで準備を行なった 2022 年度であった。特に心配している現地でコロナに感染してしまう危険性、不慣れな海外生活によるストレス、やっと実現できた海外で危機管理意識の低下など、日本からもリモートでサポートしながらほとんどの学生は満足のいく海外留学/研修ができた。</p> <p>防災の組織体制を敷き、訓練も定期的に行うことができているが、リスク管理の意識を高く持ち、検討頻度を上げ高度化を図っていきたい。新型コロナ対策では自治体の発表を慎重に確認し、感染拡大予防の取り組みを行った。</p> | <p>【日本語学科】避難訓練に関しては、留学生対象であることを考慮し防災に関するビデオの視聴や、安否確認システムの多言語マニュアルを作成している。</p> |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 大谷内 圭 |
|--------|-----------|-------|-------|

6-22 施設・設備等

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--|-------------------------|--|--|--|
| 6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか | 教育力向上にむけ設備投資は重要だと考えている。 | <p>2021年4月からは全学生がノートPCを所持した体制を実現した。これに伴い、(株)With the worldによるオンラインPBLの授業を導入し、海外の友人を作れる機会を創出した。全員にGoogleアカウント(G-Suite)、Microsoft365アカウントを付与し、授業や自宅学習において活用している。</p> <p>ELCでは英語力向上のための様々なプログラムを用意しており、学生たちは自由に自分に合ったレベルのプログラムに取り組むことができ、それをELCの学習アドバイザーが個別で採点や間違ったところを懇切丁寧に教えている。</p> <p>EIPでは学生の英会話練習をネイティブ講師にむけて実践できる場であり、朝・昼と学生のライフスタイルに合わせて開場している。</p> | 全館wi-fi対応としているが、不安定なフロア、箇所があり、安定した授業提供のため改善が必要である。ICT活用力の伸びを測定するよう23年度は年度末にアンケートを実施する予定。 | EIPプログラム、ELCプログラム、G-Suiteマニュアル、World in focus シラバス |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 教育力向上にむけ、ICTを含めた投資や設備営繕を進めていきたい。2021年度より学生に一人1台のデバイスの配布を行っている。オンラインにより学びが広がり、日本国内に居ながら海外とつながるプログラムに挑戦することができた。またGoogleアカウント、Microsoftアカウントを全学生に配布し、環境を整備した。英語学習の全般サポートを行うELC、実践英会話練習ができるEIPへの動員を啓蒙している。 | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 大谷内 圭 |
|--------|-----------|-------|-------|

6-23 学外実習、インターンシップ等

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|--------------------------------|---|---|-----------------------|
| 6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか | 学内で学んだことを、学外で実際に試行することを重視している。 | 2022年度後半はコロナ禍が落ち着きつつあったため、2020年度より実施を見送っていた海外留学/研修を再開することができた。韓国に44名、オーストラリアに14名、ニュージーランドに9名が海外に渡航した。海外インターンシップは渡航時期が早いいため断念し、別途代替カリキュラムで授業を提供した。 | 今回の海外渡航では一部学生たちの危機管理の意識の欠如、海外の生活での心構えが十分にできていないままの渡航により途中で帰国せざるを得ない状況になった者もいた。海外渡航は2022年度に入ってから決定したこともあり、準備の時間が不足していたことが原因。次年度以降はコロナも更に落ち着いていくためにしっかりと準備を施していく。 | パンフレット、留学代替プログラム、留学規定 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|---|
| ようやく海外渡航できる目途が立ったため、急ピッチで準備を行なった2022年度であった。特に心配している現地でコロナに感染してしまう危険性、不慣れた海外生活によるストレス、やっと実現できた海外で危機管理意識の低下など、日本からもリモートでサポートしながらほとんどの学生は満足のいく海外留学/研修ができた。 | 大学や他校が留学や海外研修を実行に移してきており、それに遅れることなく本校でも実施できた2022年度であり、準備がとても大事であると痛感した年でもあった。 |

最終更新日付

2023年8月4日

記載責任者

松井 治

6-24 防災・安全管理

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------------|--|---|-----------|--|
| 6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか | 防災体制を整備し、有事の際に学生、教職員の安全確保を円滑に行うよう備えることを方針としている。 | 全学生、教職員に毎年刷新した災害対応マニュアルを年度初めに配布し、安否確認サイトの案内を行っている。年に2度防災訓練を実施している。新型コロナ対策では自治体の発表を慎重に確認し、感染拡大防止の取り組みを行った。 | | 災害対応マニュアル、防災訓練マニュアル、新型コロナ対策マニュアル、学生アンケート |
| 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか | 安全管理体制を整備し、日頃から防災についての意識をし、リスク管理について周知を行うことを基本としている。 | 防災訓練を年に2度行い、役割を決め、有事を想定した訓練を行っている。非常時の水や食料の備蓄も、毎年数量・品質の確認を行いながら管理している。 | | 防災訓練マニュアル |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--|
| 防災の組織体制を敷き、訓練も定期的に行うことができているが、リスク管理の意識を高く持ち、検討頻度を上げ高度化を図っていきたい。新型コロナウイルス対策では自治体の発表を慎重に確認し、感染拡大予防の取り組みを行った。 | 新型コロナ感染予防への取り組み：【授業面】学年別時差登校、学年別分散登校、Google、期末試験オンライン化、ライブ型オンライン授業【運営面】全教室空気清浄機設置、教職員室・学生ラウンジ等アクリル板設置、検温シフト体制整備、各校舎玄関検温モニター設置、エレベーター人数・利用階制限実施、学生による感染予防アナウンス実施、ランチ時の黙食奨励巡回指導、喫煙スペース巡回指導等。 |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 大谷内 圭 |
|--------|-----------|-------|-------|

基準 7 学生の募集と受入れ

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|
| <p>学生募集は、高等学校等接続する教育機関との連携、学校からの情報伝達（伝達方法：学校HP、電話、対面）、募集イベント（オープンキャンパスやオンラインイベント等）、適正な入学選考、入学までのケアから成り立つものとして、継続的な活動を行っている。</p> <p>入学希望者に対しては、入学に関する情報整理を行い、入学希望者のみならず、その保護者、高等学校へ正確かつ、わかりやすく伝える必要がある。特徴が整理され、分かりやすい学校パンフレット・募集要項の作成、入学希望者のニーズに合わせたオープンキャンパスの実施、情報コンテンツ（Web、SNS）配信を通してより、大多数と個々への問い合わせまで広く情報提供を行っている。</p> <p>募集活動では、観光・語学分野の最新情報と最新就職状況を共有。就職実績が回復傾向にあることを入学検討者とその保護者に対し、情報伝達を行っている。また、同分野の大学・専門学校の調査分析を行い、本学独自の特徴を整理しながら、独自性のある情報提供とイベントでの体験を実施して募集力回復に努めている。</p> <p>今後、観光だけでなく、語学に関わる業界の各企業・教育機関との企業連携を深めていく中で、独自性のある教育とそこから導かれる就職・進学（成果）のPR、また、専門を学びつつ、ICT・語学・ビジネスを学ぶ多様な学びを提供する学校を訴求する。コロナ緩和により、今後の分野人気も入学検討者の推移に影響する状況だが、各業界の回復の動きから本学の国際社会で活躍できる人材輩出の教育を訴え続ける。</p> <p>入学選考の方法、入学形態、受験日程に関しては募集要項に記載をしながらオープンキャンパス等で説明を行っている。受験者の実績、受験結果は教務課と入学前から共有して事前に得た情報を教職員間で共有する体制を強化していく。</p> <p>学納金に関しては、学科・コースごとに発生する必要経費を計上し、募集要項に学費、教材費、諸経費として明記している。</p> <p>入学辞退者に対しては、辞退手続き規定を明示して、各辞退者一人一人への対応を行っている。</p> | <p>【日本語学科】 日本語学科の国籍比率は、60%以上が中華圏（中国、台湾、香港）の学生となっている。留学生の在留資格認交付に関しては、99%以上許可をされており、適切な学生の入学審査ができています。 また、在籍生の国籍を増やすため欧米、東南アジアの他、2022年度より南アジア地域も募集を開始した。</p> <p>【国際コミュニケーション学科】 国際コミュニケーション学科においては、国内日本語学校を中心に学生募集を実施している。コロナ禍により日本語学校の留学生数の減少していることや、入国遅れ等の影響により留学生の日本語力が大きく低下している状況がある。そのため、日本語力の高い学生募集が難しい。受験生への学校内容理解を促進するため、複数の日本語学校にてガイダンスを実施している。また日本語学校教員への本校認知度を高めるために、留学生対象コースの教員向け学校説明会を実施している。</p> |

| | | | |
|--------|-----------|-------|------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 奥 大輔 |
|--------|-----------|-------|------|

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------------------|---|---|--|--|
| 7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか | 学校に関わる情報（教育内容、実績等）の提供、また、本校への進学者に関わる情報を共有しながら、安心して進学を勧められる学校として認知されている状態が望ましい。 | 関西エリアの高等学校を中心に進学説明会参加を行い、進学者への情報提供を実施。また、英検対策講座等の教育提供を通じて、連携を進めていく。重点校12校には定期的に訪問を行う。 | 連携高校の拡大。入学実績の多い高等学校を中心に本学の教育内容、就職実績を共有する機会を設け、進学先としての信頼感を向上させていく。定期的な高校訪問ができていないことが課題。高校との関係性を深め学生を紹介いただいたり、校内ガイダンスの機会をいただけるようにしていく。 | 英検講座案内 |
| 7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか | 学生募集活動において入学希望者には進路決定のための十分な判断材料を提供の上、学校の情報を正しく、透明性と独自性をもって伝える。また、入学希望者の求めている情報やニーズを把握し、正確で効果のある方法を行っていく。 | 対面にて、分野別のイベントなど複数のイベントを開催。イベント内では、最新就職状況を共有。観光業界の現状もお伝えし、就職実績が回復傾向にあることを伝達している。また、同分野の大学・専門学校との調査分析を行い、本学独自の特徴を整理しながら、独自性のある情報提供とイベントでの体験を実施して募集力回復を目指している。 | 語学系コースの企業連携が必要。観光系に比べ、語学系は出口が不透明である。国際力や人間力や語学力を活かし、その後どのような職につけるのか、在学中に観光系コース同様、企業連携を深めていきたい。募集MTGを実施し、教務のとの連携を強化する。 | 学校パンフレット 募集要項 学校HP Instagram イベント告知DM 進学説明会 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| 学生募集活動において、高等学校、入学希望者へは情報の真実性、明瞭性、公平性、法令遵守の下、提供することに努めている。その情報も必要な内容（本校の特色、教育内容、就職等）を選択して収集し、それぞれ担当者を決め、明瞭に説明を行うようにしている。募集活動課題として、高等学校との関係性の構築が必要。観光・語学に関わる業界の各企業・教育機関との連携を深めていく中で、独自性のある教育とそこから導かれる就職・進学（成果）をPRする。また、専門性を学びつつ、ICT・語学・ビジネスを学ぶ多様な学びを提供する学校を訴求する。 | 留学生の学生募集に関しても、日本人とともにオープンキャンパスへの参加を促し、留学生募集担当部署である留学生センターと共有のうえ進学に関する情報提供等の募集活動を行っている。 |

最終更新日付

2023年8月6日

記載責任者

奥 大輔

7-26 入学選考

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-------------------------------------|---|---|-----------|-------------------------------------|
| 7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか | 入学選考において、志願者へ明確に選考内容、日程などを知らせ、試験当日の受験まで滞りなく行う体制を整えることを方針としている。選考内容には公平性が必要と考えている。 | 入学選考は全て募集要項に決められた日程と方法により、適正かつ公平な基準で入学選考を実施している。さらに、入試のオンライン化を図り、WEBでの出願体制を構築。 | | 募集要項 |
| 7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか | 入学選考に関する実績情報の把握と記録をして、入学者の傾向を把握の上、授業方法の改善に繋げる必要と考えている。 | 合格者の願書、面接試験内容の結果を蓄積管理している。教務課と共有して指導に活用。直近の入学者数・辞退者数から予測数値を算出して募集活動に繋げている。入学前に得た情報(入試や説明会等)や学科・コースごとのリストを作成し教職員に共有している。 | | 募集要項 英語レベルチェックテスト問題 AO 入学案内冊子 |

| 中項目総括 | 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等) |
|---|---------------------------------------|
| 入学選考の方法、入学形態、受験日程は募集要項に全て記載をしている。入学選考における受験結果は学内において英語課と入学前から情報共有して、英語レベル別指導に活用している。事前に得た入学者(学生本人とその保護者も)の入試面接内容等の情報を学内での指導向上に繋がるよう、教職員と共有し、引き続きその連携を深めていく。また、入学者数の予測数値を定期的に算出し学内で共有している。 | 日本語学科は文部科学省だけでなく、法務省からの基準にも沿って運用している。 |

最終更新日付

2023年8月4日

記載責任者

奥 大輔

7-27 学納金

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------------------|---|--|--|-----------|
| 7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか | 学納金に関しては、適切な水準を把握しながら、学科・コースの必要経費から算定した金額を募集要項で明確に提示することを方針としている。 | 学科・コースごとでそれぞれ発生した経費を元に学費、教材費、諸経費を算定。その内容を募集要項に掲載し、説明会等を通して情報提供をしている。 | グローバル英語コースの留学費用について、募集要項内に記載があるが、より明確に伝える必要がある。説明会時、留学時の授業料が充当されることなど明記する。 | 募集要項 |
| 7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか | 入学辞退者に対しては、納めた学納金を適正に返還するよう取り組んでいる。また、返還規定の明瞭な説明、情報提示を行うことを方針としている。 | 学納金の返還規定や返還手続きは募集要項での記載と説明を行っている。学費返還発生時には、納めた金額を正確に把握し、入学辞退者への返還を速やかに行っている。 | | 募集要項 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 学納金の算出に関しては、各学科・コースに合わせた必要経費を計算して、適切な水準を把握して、必要経費を学費、教材費、諸経費として募集要項を通じて記載をしている。学納金の減免制度に関わる管理システムの構築と改善を続け、丁寧に対応していく。また、入学辞退者に対しては、返還規定や辞退方法を明確に説明し、辞退発生時での迅速な対応を行っている。 | |

最終更新日付

2023年8月4日

記載責任者

奥 大輔

基準 8 財務

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・ 学園全体の収支バランスはとれており堅実な学校経営が行われている。また貸借対照表の現預金の状況から、当面の財務基盤は安定しているといえる。・ 予算の編成及び執行に関する規定は、寄附行為に定められている。・ 予算の編成は次年度在籍者数予測（収入予測）を基に、収支を見ながら事業計画と予算案を策定している。寄附行為に基づく監査は規程に基づき行われ、その結果を理事会及び評議員会に報告している。・ 毎月、学校・部署ごとに予算実績のチェックを行い、決算に向けて常に経費意識を持ち予算管理を行っている。・ 学園サポート本部において、所管部署を定め開示請求に対応できる体制を整えている。 | |

最終更新日付

2023年6月1日

記載責任者

酒元 秀和

8-28 財務基盤

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|-----------------------------------|---|--|--|---|
| 8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか | <ul style="list-style-type: none"> ・応募状況の推移については、学科ごとに把握する。 ・収支状況を基に、学生募集、施設設備費等を勘案する。 ・在籍者数を予測し計画的に設備投資を行う。 ・単年度で常に収支バランスを意識し、収入を基に支出金額を決定する。 ・毎年度、基本金組入前当年度収支差額をプラスとし、安定した経営基盤を維持する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・入学者数及び在学見込者数を基に予算を作成し、期中は毎月、収支予測見直しを行い、収支バランスを重視した予算の執行に注力している。 ・事業活動収支計算書の基本金組入前当年度収支差額はプラスである。 ・貸借対照表の翌年度繰越収支差額もプラスである。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在は財務上の問題点はないが、社会情勢や少子化に伴い、学科ごとの収支の現状を把握し、継続的にプラスの収支差を確保していく必要がある。 ・状況に応じて、経費削減などに対応できる体制を整えて行く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・過去3年間の資金収支計算書 ・過去3年間の事業活動収支計算書 ・過去3年間の財産目録 ・過去3年間の貸借対照表 |

| | | | | |
|--|--|--|---|---|
| <p>8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか</p> | <ul style="list-style-type: none"> 法人本部で学園全体、また学校ごとの計算書類、財務分析資料を作成し、役員・運営責任者に対して提供する。 収支については、予算実績対比ならびに、前年度実績との対比を行い、分析の資料として精度を高める。 キャッシュフローの状況を示す資料を作成する。 コスト管理に注力し、適切な処理を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 直近3年間の収支状況(資金収支・事業活動収支)による財務分析を行っている。 直近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っている。 教育研究費比率、人件費比率は適切な数値になるよう注意を払っている。 毎月の収支執行状況を学校責任者が確認し、学園全体の収支の推移が把握できる体制になっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 収支の厳しい学科もあり、行事や学科、コースごとの収支を把握し学校運営に反映できるシステムを構築する必要がある。 学生数の減少に伴い経費削減を図っている。人件費については急激な削減は困難であるが、適正な人件費比率を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 過去3年間の学校法人等基本調査票 過去3年間の基礎資料調査計算書(大阪府私学課提出) |
|--|--|--|---|---|

| 中項目総括 | 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等) |
|--|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 学園全体として、教育活動の充実及び学校経営の両立を目指して行く。 新型コロナ感染拡大の影響により2019年度をピークに学生数は減少傾向だが、当面の財務基盤は健全である。 2023年度以降についても、社会情勢により経営環境は厳しさを増しているため、継続的にプラスの収支差を確保していけるよう経営基盤の強化に注力する必要がある。 経費削減に努め、増収増益の財務基盤を築いていく。 教室・実習室の稼働率の更なる向上を目指す。 学校施設、設備については、定期的、計画的に入換えを行っている。 経費支出については、学生数の減少に対して教職員数が増加傾向にあり人件費が増加しているため、将来を見据えて効率化を図っていく。 今後の18歳人口の減少を見据え、留学生募集への注力及び国際状況の変化に柔軟に対応し、教育実績の向上による更なる競争力の強化により、一定数の在籍者数を確保し続ける。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年7月13日 | 記載責任者 | 酒元 秀和 |
|--------|------------|-------|-------|

8-29 予算・収支計画

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--|---|--|---|--|
| 8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか | <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画（目標）を基に、単年度の教育目標と新規事業（設備）計画を立案する。 ・次年度収入予測を基に収支を計算し新規事業と既存事業の調整を行い確定予算とする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図って作成している。 ・予算の編成過程及び決定過程はスケジュールを立てて実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標と運営（経営）目標の両面を考慮した予算を策定していく。 ・予算立案時に、予算配分の優先順位を勘案する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・予算書（当該年度及び前年度分） |
| 8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか | <ul style="list-style-type: none"> ・予算は補助科目ごとに月別支出金額を算出し、それを合計して作成する。 ・予算と同時に作成する経費内訳書に、月別の予算執行計画を記入し、それを基に毎月、経費元帳と突き合わせて予算執行管理を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間スケジュールにより、予算の執行計画を策定している。 ・予算と決算に大きな乖離を生じないように注意を払っている。 ・予算執行にあたり、毎月、実績チェックならびに、予測値の変更修正を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・予算外案件が発生した場合は、金額、内容により、稟議書にて決裁を仰ぐ。 ・その上で、予備費から充当するなどの措置をとる。 ・執行状況は理事会、評議員会に報告し、承認をうけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・予算実績対比表 ・経費内訳書 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録を作成し財務内容を把握している。これとは別に、月々の予算実績対比表を作成し事業計画および予算の進捗状況を検証し、決算に向けて予算実績管理を行っている。また、その資料は、次年度以降の計画、予算作成の資料としている。 ・予算および収支計画については、学生生徒納付金収入などの収入予定金額を試算した上で、学校ごとに事業計画を立案し、それらの計画案を精査した上で、予算案を作成する。そして全体調整の後、評議員会の意見を聞き理事会の承認を得て予算計画に沿った予算執行が取り行われる。 ・予算管理システムにより、各部署予算の執行状況及びその内容等を毎月確認している。 ・学費回収状況については、毎月入金確認を行い必要に応じた対応を行っている。 | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年7月13日 | 記載責任者 | 酒元 秀和 |
|--------|------------|-------|-------|

8-30 監査

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------------|--|--|-----------|---|
| 8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか | <ul style="list-style-type: none"> ・私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・私立学校法及び寄附行為に基づき監査を実施し、会計年度終了後 2 カ月以内に監事が監査報告書を作成し理事会、評議員会に報告をしている。 ・監査時における改善意見や指摘は受けていない。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・過去 3 年間の監査報告書 ・報告審議理事会議事録 |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・寄附行為に基づき専任された 2 名の外部監事が、事業報告書及び計算書類（資金終始計算書、事業活動終始計算書、貸借対照表、財産目録）により財務会計監査を実施している。 ・公認会計士の 1 名の監事に対して、定期的に会計処理および財務状況についての報告を行っており、指摘を受けたものについてはその都度訂正を行っている。 ・監事による監査は、毎年決算処理が完了する 5 月に実施し、会計年度終了後 2 カ月以内に監事作成の監査報告書を理事会および評議員会に提出し最終的に承認を得ている。 | |

最終更新日付

2023 年 6 月 1 日

記載責任者

酒元 秀和

8-31 財務情報の公開

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|---|--|-----------|--|
| 8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか | <ul style="list-style-type: none"> ・私立学校法の規程に基づく財務情報公開を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・公開が義務づけられている収支計算書類、貸借対照表、財産目録、事業報告書及び監査報告書を毎年 5 月末までに作成し 6 月中に学園ホームページに公開すると共に、財務公開実績を記録している。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書及び監査報告書 ・計算書類公開実績 ・学校ホームページ |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・私立学校法第 47 条に基づく財務情報公開については、会計年度終了後 2 ヶ月以内に資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告及び監査報告書を作成し、学校の利害関係人からの公開請求に対応できる体制を整えている。また、毎年会計年度終了後 3 ヶ月以内に山口学園 Web サイト上で財務諸表の公開を実施している。 | |

| | | | |
|--------|----------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023 年 6 月 1 日 | 記載責任者 | 酒元 秀和 |
|--------|----------------|-------|-------|

基準 9 法令等の遵守

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| <p>学校の教育目的に「本学は学校教育法及び教育基本法に基づき、語学ビジネス専門教育を通じて実社会に有用な人材の育成を目的とする」とあるとおり、関係法令及び専修学校設置基準、大阪府審査基準、寄附行為等の学園規程を遵守して学校運営を行っている。</p> <p>法令遵守については学園サポート本部を担当部署とし、顧問弁護士、公認会計士、税理士、社会保険労務士、一級建築士、学校医、産業医等と連携し法令の制定、改定などに対応している。</p> <p>個人情報保護に関する取り組みは「個人情報保護に関する基本方針」、「個人情報管理規定」「個人情報取扱マニュアル」「個人情報開示申込等に関するマニュアル」を定め学内サイトおよび一部を学園手帳（全教職員に毎年配付）に記載し運用を行っている。また学園内グループウェアを使用し啓発情報を随時発信している。</p> <p>在校生に対しては「個人情報保護に関する基本方針」を HANDBOOK（全学生に配付）に記載して告知している。また、対外的には学園ホームページに「個人情報保護に関する基本方針」及び「プライバシーポリシー」を公開している。</p> | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年7月13日 | 記載責任者 | 余村 博文 |
|--------|------------|-------|-------|

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--|--|--|-----------|---|
| 9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか | 法令を遵守し社会的に評価される学校運営を行い、学園運営目標2項にある「教職員が誇りを共有し、且つ、安全で健康そして楽しく働きやすい環境を有する専門学校づくりをめざす。」を実現する。 | 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等を適切に行っている。 学校運営に必要な規則・規程等を順次整備しており、適切な運用を心掛けている。 ハラスメント相談窓口、公益通報・相談窓口を定め運用を開始している。 | | 学則改正等の届出資料 理事会・評議員会議事録 学則及び諸規程 ハラスメント防止規程 ストレスチェック制度実施規程 衛生委員会規程 学園手帳 |

| 点検中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| <p>学校教育法や専修学校設置基準に定められている規則を遵守すると共に、私立専修学校・各種学校事務の手引きをもとに、適切な運用と関係省庁への書類提出を行っている。</p> <p>また、資格の認定に関わる学科においては、認定省庁からの指導と法令を遵守し、資格取得に必要な科目、授業時間数、教員を確保している。</p> <p>公益通報・相談窓口、ハラスメント相談窓口の設置及び告知（学園手帳）を行い、問題の早期発見と対応ができる体制を構築している。</p> <p>衛生委員会は毎月開催し、アンケートを実施するなど従業員の要望を収集し、職場環境改善につなげる活動を行っている。</p> | |

| | | | |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年7月13日 | 記載責任者 | 余村 博文 |
|--------|------------|-------|-------|

9-33 個人情報保護

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------------|--|--|--|---|
| 9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか | 法令に則り個人情報を適切に管理する。保有する個人情報は必要最低限とし、可能な限り情報漏洩リスクを低減させる。 | 個人情報保護に関する取り組みは「個人情報保護に関する基本方針(2005年制定)」、「個人情報管理規定(2019年改訂)」、「個人情報取扱マニュアル(2022年改訂)」、「個人情報開示申込等に関するマニュアル(2005年制定)」を定め運用を行い必要に応じて情報セキュリティ委員会にて見直しを行っている。 外部公開の Web システムについては、DMZ 上にサーバーを配置し外部攻撃があっても学内侵入できないようにしている。また外部公開の Web システムおよび広報サイトには一部を除き SSL 暗号化通信方式を採用することで情報漏洩対策を実施している。 | MS365 のアカウント乗っ取り事案が発生するなど、外部からの脅威が増している。そこで学園外から MS365 へのサインインには多要素認証を導入した。教職員には認証用電話の登録を必須とさせ、本人以外のアクセスを防止した。更にセキュリティを強化するため学園内外に関わらずサインインの保持を7日間とした。 | 個人情報保護に関する基本方針 個人情報管理規定 個人情報取り扱いマニュアル 個人情報開示申込等に関するマニュアル マイナンバー受領手順 プライバシーポリシー 文書管理規程 |

| 中項目総括 | 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等) |
|---|---|
| 個人情報保護については「個人情報保護に関する基本方針(2005年制定)」を制定し、学内サイトに公開しこの方針に則って運用している。2019年に個人情報管理規定の改定を行った。2022年に個人情報取扱マニュアルの改定を行った。また、マイナンバーの施行に合わせ、2015年に「マイナンバー受領手順」を策定し、周知徹底するため学園全職員対象に説明会を行った。文書管理規程に電子データを含む学園の文書の保管期間を定めており、個 | 2021年より情報セキュリティ委員会を開催し検討を重ね、2022年5月に個人情報取扱マニュアルの改定を行った。 2021年度より各学校の担当者と本部が連携し、学園内のパソコン、タブレットの管理リストを作成した。今後も継続的に情報を更新し管理を継続する。 |

個人情報を含む文書の保存期間の周知を行い学園全体で適切な管理運営を推進している。

個人情報保護及び漏洩対策としてハード面、システム（IT システム及び管理ルール）、教職員の意識向上の3つを相互に高めていく取り組みを推進している。学生の情報を広報で活用する際は広報課を責任部署とし同意書の回収を行う。

最終更新日付

2023年7月13日

記載責任者

余村 博文

9-34 学校評価

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|----------------------------------|--|--|-----------|--------------------|
| 9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか | 自己評価を各部署が適切に行い、問題を共有し、改善に努めていくことを方針としている。 | 各部署責任者や専任教員と共に自己評価を年1回行い、学校関係者評価委員会で共有している。また学校HPへの掲載を行っている。 | | 学校HP、学校関係者評価委員会議事録 |
| 9-34-2 自己評価結果を公表しているか | 自己点検、評価を行った結果を年に1度学校HPにて更新し、公表することを方針としている。 | 自己評価結果を学校HPにて公表している。 | | 学校HP |
| 9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか | 学校関係者評価委員会を年に2回行い、外部関係者からの意見を改善に活かすことを方針としている。 | 年2回学校関係者評価委員会を開催している。 | | 学校関係者評価委員会議事録 |
| 9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか | 学校関係者評価委員会の議事録を学校HPにて更新し公表することを方針としている。 | 学校関係者評価委員会開催後、学校HPにて議事録を公表している。 | | 学校HP |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 自己点検・自己評価、学校関係者評価と各過程での公表を行っている。特に外部委員からいただいた意見を内部で精査し、運営に反映できるよう引き続き努めていきたい。 | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月6日 | 記載責任者 | 大谷内 圭 |
|--------|-----------|-------|-------|

9-35 教育情報の公開

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------|---|---|-----------|-------------|
| 9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか | 学生や保護者への教育情報の公開が即時に行われるよう注力し、透明性のある学校運営を行うことを方針としている。 | 学校 HP では各コースで行われた出来事がニュースとして随時アップされる。学校HP、学校案内ともコースカリキュラムやシラバス、教職員情報も記載されている。 | | 学校HP、パンフレット |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 透明性のある学校運営を行うため、学校HPには即時に学内で行われていることをニュースとして公表するよう努めている。パンフレット・学校HPとも学内の情報や教職員、カリキュラムを細かく掲載している。 | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 大谷内 圭 |
|--------|-----------|-------|-------|

基準 10 社会貢献・地域貢献

| 大項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|
| <p>学校が保有する教育資源として、観光・英語教育があり、大阪府実践的英語体験活動推進事業（グローバル体験プログラム）を受託し、大阪府下の中学生・高校生に向けプログラムを提供している。</p> <p>国際交流に関してはグローバルカレッジネットワークに加盟し、スタッフ間でのオンラインMTGや、一部コースでのオンライン交流授業を行った。また留学生の募集を積極的に行うなど、重要方針として実施している。</p> <p>ボランティアへの取り組みは、学生の人間力向上に大きく影響する活動であり、学園全体で重視している。学園内に社会貢献センターを配置し、年間を通じてボランティア活動機会を用意し、学生への情報提供を行っている。また社会貢献活動に特化したホームページにおいても情報発信を行っている。</p> | <p>グローバル体験プログラムについて、2022年度前半は、まだ高校等の休校など感染状況の悪化が参加者のキャンセルにはつながっていないが、高校の担当者からは生徒の感染が増えていると報告あり。状況を見て、安全、円滑に実施・運営を行なった。</p> <p>中間時点では、高校等の夏休み期間は年間を通じて一番参加者が見込める時期であるため、ほぼ毎日グローバル体験を実施した。過去2年と違い、新型コロナの感染等による参加校全員のキャンセルは無い状況で、感染した生徒のみが欠席をする状況となった。</p> <p>2022年度後半になり、例年、高校の学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行等）が多いため参加予約が少なくなったが、コロナ禍の過去2年間と比較してキャンセルも無く、順調に参加者が増えた。目標の2,000名へ到達できるペースは変わっておらず、大阪府へも状況を報告し、満足いただいた。</p> <p>新規実施コース（英語でボランティア体験コース）を含め、高校生等の満足度を高められるように運営して、国際外語の募集に少しでも貢献できるようにしていきたい。</p> |

| | | | |
|--------|-----------|-------|------|
| 最終更新日付 | 2023年8月5日 | 記載責任者 | 松井 治 |
|--------|-----------|-------|------|

10-36 社会貢献・地域貢献

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------------|--|--|--|--|
| 10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 学校が保有する教育資源を活用し成果を社会全体に還元することは重要だと考えている。 | 大阪府実践的英語体験活動推進事業(グローバル体験プログラム)を継続して受託している(11年目)。目標来場者数は2,000人で、最終の参加予約者は3,084名、参加者は2,402名と目標を上回った。 | 既に大阪府内の高校には認知されており、海外に行けない学校や海外に行くための準備、課外活動の一環として利用していた。 | 大阪府実践的英語体験活動推進事業 HP、学校 HP |
| 10-36-2 国際交流に取り組んでいるか | 諸外国との連携や留学生の積極的な受け入れはグローバル化に向けて重視している。 | グローバルカレッジネットワークに加盟し、各校との交流を行っていたが、2021年度同様、2022年度もコロナ禍の影響で学生同士での交流はできなかったが、スタッフ間でのオンラインMTGを通して各校の情報は共有できた。 | コロナ禍で海外からの留学生の来日が実現できないため、オンラインでの国際交流を積極的に行なった。国際ビジネスコース×オランダのCurioなど。また各コースにおいてアジアの学生と繋がりSDGsなどを題材としたPBL型の取り組みを実施している。(With the World)。23年度より「多文化共生理解」という科目を位置づけ、留学生と共に学ぶ機会を創出する予定。 | グローバルカレッジネットワークカンファレンスガイド、グローバルカレッジネットワークHP、留学生用募集要項、学校案内書 |

| 点検中項目総括 | 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等) |
|--|--|
| <p>学校が保有する教育資源として、観光・英語教育があり、大阪府実践的英語体験活動推進事業(グローバル体験プログラム)を受託し、大阪府下の中学生・高校生に向けプログラムを提供している。</p> <p>国際交流に関してはグローバルカレッジネットワークに加盟し、スタッフ間でのオンラインMTGや一部コースでのオンライン交流授業を行った。また留学生の募集を積極的に行うなど、重要方針として実施している。</p> | <p>新型コロナの影響が長期化し、高校の教育現場においても留学や海外研修プログラムが実行できない現状を受け、提供するプログラムの見直しを行い、大阪府内の多くの中学生、高校生が海外をより身近に感じ、グローバルな視点を持ち続けてもらえるよう責任をもって事業を継続していく。</p> |

| | | | |
|--------|-----------|-------|------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 松井 治 |
|--------|-----------|-------|------|

10-37 ボランティア活動

| 小項目 | ア 考え方・方針・目標 | イ 現状・具体的な取組等 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|---|---|---|-----------------------|
| 10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか | 学生のボランティア活動への取り組みは多くの機会を与えるよう情報提供が重要と考えている。 | 学園内に社会貢献センターを配置し、同センターを窓口として年間を通じて様々なボランティアを案内している。社会貢献活動に特化したHPを作成し、関与している活動について外部への情報発信を行っている。毎月ボランティアスタッフ登録の説明会を実施し、ボランティア活動への門戸を開いている。 学生会の発案により世界の貧困で苦しむ子供たちのために22年度は、18,000個ほどのペットボトルキャップを回収し、社会貢献に繋がった。 | コロナによる制限が徐々に緩和し、済美カーニバル（夏祭り）、梅田まち案内エスコート、ホテルコース卒業制作カフェ・ラポール、国際親善女子車いすバスケットボール大会、中崎町キャンドルナイト等の活動に参加することができた。 学生会が主体となり、地域や社会貢献につながる企画を考え、運営していく体制を整えていく。 社会貢献に興味を持つ人たちが増えており、体験をする機会を通年で導入するよう調整するほか、コースのカリキュラムポリシーに入れるなど、関与度を上げていきたい。 | 学校HP ボランティア案内（アプリ） |

| 中項目総括 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| ボランティアへの取り組みは、学生の人間力向上に大きく影響する活動であり、学園全体で重視している。学園内に社会貢献センターを配置し、年間を通じてボランティア活動機会を用意し、学生への情報提供を行っている。また社会貢献活動に特化したホームページにて情報発信を行っている。 | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2023年8月4日 | 記載責任者 | 大谷内 圭 |
|--------|-----------|-------|-------|